

## 1 初めてフランスの地を踏んだ日本人・支倉常長

現在、フランスには約4万人<sup>1</sup>の日本人が生活しています。2019年にフランスから日本に入国した人の数は、約336,000人<sup>2</sup>にのぼります。また、例年であれば、年間50万人以上の日本人<sup>3</sup>がフランスを訪れます。では、最初にフランスの地を踏んだ日本人は誰だったのでしょうか。

1613年、支倉常長は東北地方を治めていた仙台藩主の伊達政宗の命で、スペイン国王とローマ教皇に謁見するために、ヨーロッパへ派遣されました。その目的は、スペイン領メキシコとの交易と日本への宣教師の派遣を実現することでした。1615年、スペイン滞在の後、ローマへ向かう途中、木造船で航海を続けていた常長の一行は、悪天候のためにサン・トロペに寄港して数日間滞在しました。このことから、常長の一行がフランスの地に足を踏み入れた最初の日本人であるとされています。



支倉常長像/ 仙台市博物館所蔵

フランス国内の図書館には、常長らの様子を伝える手記が残されています。そこには、彼らが二本の小さな棒（箸）を使って食事をしたことや、鼻をかむ時には紙を使い、その紙が使い捨てだったことが記録されているそうです。初めて見る日本人の行動に、当時のフランス人はさぞかし驚いたことでしょう。

常長の一行は、日本を出発してから7年後の1620年に帰国しました。スペインやローマでの交渉は実らなただけでなく、すでに日本国内ではキリスト教の弾圧が行われていました。その後、日本は鎖国の時代に入りました。日本とフランスの交流が始まるまで、200年以上の時を待たなければなりませんでした。

掲載日：2021年1月21日

<sup>1</sup> 令和元年10月1日現在のフランスの在留邦人数は40,538人。出典：令和2年度海外在留邦人数統計

<sup>2</sup> 2019年のフランスからの入国者は336,400人。出典：日本政府観光局（JNTO）

<sup>3</sup> 2018年にフランスに入国した日本人は540,169人。出典：日本政府観光局（JNTO）